



趣味の写真や珈琲にも共通する、  
朗読の”シンプル”さ。  
そこから豊かなイメージが生まれる。

特に写真や珈琲にこだわりがあるのですが、実は朗読と共通点があるんです。例えば写真はフィルムカメラでモノクロ撮影するんですが、色もない動きもない、カメラの画角に収めなくてはいけない、という果てしない制約があります。でもその中で、何が表現できるか？何が表出するのが面白い。

珈琲も大好きなんですけど、あれって煎って砕いた豆をお湯が通過するだけのものですよ。なのに、「あの店の焙煎が美味しい」、「あの産地の豆はナッツの香りがたまらない」など、とても奥深い。極限までシンプルな世界であればあるほど、少しの差がはつきり出ちゃうんです。そういうところに、逆に豊かさを感じます。

茶道の世界に「侘び寂び」ってありますよね。華美に盛っていく表現にももちろん面白さはあるけれど、枯れて



会場ごとに違いますね。むしろ違わないと、生の舞台としては嘘になる。聴いているお客様だって違和感を持つんじゃないかな。それは、あんまりしたくないんです。

——まさにライブの醍醐味ですね。  
この朗読は、音楽も重要な

## マルチな才能が挑む 石井正則の 朗読&音楽の世界

お笑いコンビ『アリス・キリギリス』の真面目キャラクターから、三谷幸喜演出のドラマ出演をきっかけに俳優としての実力が注目され、映画『EPM有頂天ホテル』、舞台『樹海』、ナレーション『Mr.サンデー』と、次々に活躍の幅を広げている石井正則さん。軽妙かつコミカルな演技に定評のある彼が、新境地となる”朗読”に挑んでいます。昨年六月に東京にて開催された初演は、満員御礼の大盛況！老若男女問わず多くのお客様が、石井正則ワールドに引き込まれました。そして今年、満を持してとび出す地方公演第一弾は、なんとこの春日井！朗読に対する、石井さんの静かなる熱い思いに迫りました。

取材：二〇四年十一月十七日@東京・株式会社リブプロ  
テキスト&スタッフ 藤江真子 写真：スタッフ 後藤友介

考える前にとにかくやってみる

——幅広い分野でご活躍をされていますが、何か意識されている事はありますか？

特にはないですね。俳優やナレーションに限らず、計画をあまり練らないで、とにかくなんでもやってみるタイプなので。大きな山を登るにも、登山計画を立てない感じですね。繰り返しやることで「あー、こういう感じか」って分かってくる、その気付きを頼りに登るみたいな。なので、朗読も「この本はこういう作品だから、こう表現しよう」とか事前にイメージ作りはしない。自分が完全に本の中に入り込むほどに、繰り返し読む。するとセリフや仕草が自然に出てくるんです。

豊かさを感じるポイントは、  
「侘び寂び」

——テレビドラマ『古畑任三郎』の西園寺守役をはじめ、テレビや舞台でも活躍されていますが、今回は新たに朗読に挑戦されますね。

世にある様々なエンターテインメントの中でも、朗読というジャンルはとにかくシンプルな芸術。そんなところに惹かれました。僕は結構多趣味で、う。準備が出来ないので、とてもスリリングですね。春日井ではどんなお題が出されるか今から楽しみです。

春日井公演限定！

この地に伝わる伝説を揃えた  
『春日井のむかし話』を朗読！



インタビューの後、春日井の民話を揃えた『春日井のむかし話』を石井さんに見ていただきました。「各地方に眠る民話や童話って面白いですよ。『尻冷やし地蔵』ですか!? 興味深いですねえ」公演当日はどの作品がどう読まれるのか? 楽しみます!

### 石井正則 ~Sound of Story~ 言葉と音楽で綴るコンサート

4/18(土) 16:00~ (開場は30分前)  
| 春日井市東部市民センター  
[チケット情報] PiPi会員電話先行予約 2/8(日)~12(木)、インターネット予約 2/17(火)~19(木)、一般発売 2/21(土)  
[料金] ¥3,800、PiPi会員¥3,500  
全席指定、当日券同額、未就学児入場不可  
[取扱い] 文化フォーラム春日井・文化情報プラザ、東部市民センター窓口、電話&インターネット予約、チケットぴあ(Pコード441-677)

主な出演者



石井正則 渚あき 山本愛香

#### 深い味わいの語り口

テレビや映画を通して観ていた石井さんは、テキパキとした演技をするイメージがある方でしたが、今回お話を伺ってみてくつがえりました。仕事や趣味に対する哲学があり、丁寧に選ばれた言葉をゆっくりと話される姿は、とても紳士的! 様々な表情を魅せてくださる石井さんに、今後も注目です!



スタッフ 藤江真子の  
ちょっと言わせて!